

「ヒガラ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

ヒガラ(日雀)は、小さな野鳥だ。成鳥でも体長は10cm ちょっとなかなく、シジュウカラ科の中では最小、日本の野鳥の中でも最も小さな部類に属する。



北軽井沢にもヒガラは多いが、シジュウカラやヤマガラに比べると、ずっと数が少ない。私の山荘のバード・テーブル(餌台)にも、めったに姿を現さない。声は、シジュウカラよりも甲高く、短い周期で「ツピッ、ツピッ・・・」(「ツ」のほうが高音)と鳴く。



ヒガラは枝に止まった姿勢にも特徴がある。背伸びをしたように足を長く伸ばしたまま、止まることが多い。危険を感じると、一瞬で飛び立つことができるようにしているのだろう。



(上;ヒガラ 下;シジュウカラ)

ヒガラはシジュウカラとよく似ている。ちがうのは大きさと模様だ。ヒガラは羽の白い模様(翼帯)が2本なのに対して、シジュウカラは1本。胸のネクタイも下まで延びていない。全体的に灰色の羽色をしている。慣れると、簡単に見分けがつくようになる。



ヒガラのもう一つの特徴は、頭の上に小さな「冠羽」があることだ。警戒時や攻撃態勢に入った時、オウムのように頭の上に羽がピンと立つのが面白い。